

話題

「これで、ひともつけしよ」と思ってますので…」型枠。取り外す手間もなく、から苦心して改良を繰り返して来た41歳の女性社長は通訳が話し終えるのを待って、にっこりと笑って見せた。

高知市の建設業「いい」新技術なのだという。高知で造られた製品は、そのまま韓国で売られる。高知で造られた製品は、そのまま韓国で売られる。高知で造られた製品は、そのまま韓国で売られる。

「ひともつけしたい」と期に「地産外商」されるが、何もあつて思える。(浅田美由紀)

型枠兼用断熱材 中韓販売へ

ビルや住宅建設などのコンクリート工事で使った型枠が、そのまま壁の断熱材になる。こんな「二重二鳥」の建設資材を開発した高知市の建設業者がこのほど、韓国の1社とライセンス契約を締結。日本だけでなく、高層ビルの建設が進む中国、韓国への売り込みを図っている。

(浅田美由紀)

同市荊野西町1丁目のBRC高知(斉原正社長)。張り付ける。昨年3月に型枠兼用断熱材「新PW(パーフェクトウオール)」を開発、この2月、県地場産業大賞奨励賞を受賞した。

通常、マンションなどの建設工事は、木製の型枠にコンクリートを流し込み、固まった後に型枠を取り外

韓国社とライセンス契約 高い保温効果に期待



型枠兼用断熱材の施工現場。白い部分が型枠の発泡ポリスチレンで、断熱材となる(高知市内)

発生しにくく、断熱や遮音効果が高いとされる。もともと30年ほど前に力

型枠が固定式のうえ金具が複雑で、鉄筋の組み立てのじゃまになったり、コンクリートがきれいに流し込めないなど欠点があった。齊原社長は、金具が可変式で、片側ずつ取り外しができる型枠に改良。6年前に特許を取得、その後もう一回改良し、従来の型枠と同じ手順で組み上げる工法を

可能にした。現在、発泡ポリスチレンは土佐清水市、金具は南国市で製造。昨年9月には県や県貿易協会、シエトロ高知が主催してソウル市と釜山市で開かれた経済ミッションに参加。エコパ社が販売価格の3%

ネーターらが支援。交渉を続けながら、韓国の特許を申請。バイオ燃料などを作る釜山市の「エコパエナジー(金明根会長)」と4月中旬に契約を締結した。エコパ社が販売価格の3%のロイヤルティを支払って中国や韓国で専用使用・販売する。同社は中国・河南省に合弁会社を持っており、主に中国市場をターゲットに売り込んでいくという。

このほど来高した金会長は「韓国や中国は日本に比べ気温が低く、断熱材を必要としているところが多い。両側から断熱するので冷房費が大きく削減できる」と期待。「韓国や中国の超高層マンションに売り込んでいく」と話していた。



2010年